

# 男性介護者が生きやすい社会へ

京都市社会福祉協議会で約20年地域福祉を担当し、多くの介護者と接する中で、「男性介護者の抱える問題は社会問題だ」との認識を持った津止正敏さん。01年に大学教授となると男性介護者問題を本格的に研究。その一方で、09年、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」を立ち上げ、事務局長として支援活動をされている津止さんに、男性介護者の置かれている実情等を伺いました。

## 男性介護者の置かれている厳しい現状

### ◆急増する男性介護者

男性介護者は急増しています。介護について初の全国調査が行われた68年当時、介護者の大半は「女性」でしたが、介護保険制度が始まった直後の'02・'03年には4人に1人が、今ではもう3人に1人が「男性」です。続柄をみても、68年当時は半数が「嫁」、4分の1が「妻」、6分の1が「娘」という順でしたが、近年の家族機能の変化や女性の社会進出などから今や女性だけで介護が担える状態をはるかに超え、「息子」や「夫」が多くなっています(図表1)。

これは単に女性介護者の比率が減って男性介護者が増えたということではなく、とにかくその場に居合わせた者が性差なしに介護者の役割を担わざるを得ないという状況が今の介護環境の実態です。

### ◆ままならない家事

男性介護者の大半は、「こんなはずではなかった」と戸惑いながらも「でも自分がやるしかないのだ」と、時代や社会から排除されたような閉塞的な介護環境の中で様々な問題を抱えながら生活しています。私たちの調査でも、「家で『こーい

一杯すら淹れたことがなかったのに、介護者となった途端に介護のみならず、家事全般をこなさなければならなかった」という回答がありました。炊事、掃除、洗濯、介護用品等の買い出し、金銭管理等々…。今まで親や妻に任せっ切りにしていた男性からは、

## 男性介護者の「孤立化」をなくせ

### ◆男性介護者の特徴

- ①真面目すぎる。介護を自分の責任と感じ、手抜きもせず「こつこつ」と最後までやり遂げようとする。
- ②成果を出そうとする。介護を仕事のようにすること、己の力で治そう・よくしようとする。
- ③ SOSを出すのがヘタ。周りの人が心配して「大丈夫？」と聞いても「大丈夫です」と言って頑張ってしまう。

こうした姿は、社会が推奨してきた「仕事一筋」という典型的な男性モデルです。でも介護とはむしろ、若い衰えていく家族に寄り添うということ。育児や家事などを同時にこなしてきた女性は、いい加減(ほどよい)加減を知っています。男性は介護者になったからといって、今までの生き方をすぐに切り換えられないのが実情です。

### ◆介護をもっとオープンに

男性介護者は、医師や学者など、権威があると思われる人からの話には頼る一方で、自分の経験(介護)を絶対視し、正しいと思いついて最後まで自分一人の力でやり遂げようとする傾向も強くあります。そうした男性介護者にとってまず必要なのは、自分の介護を人に話してみることでしょう。そし

「家事なんて女・子どもの仕事とバカにしていたが、こんなに大変だとは思わなかった」「これからは返しです」などの声が聞かれます。しかし、夫婦二人暮らしの老老介護や仕事と介護を両立する人などにとっては、介護保険が使える入浴や排泄の介助などよりも、むしろ炊事、掃除、洗濯、買物など不慣れな家事の負担が重くのしかかってきます。

### ◆深刻な介護離職

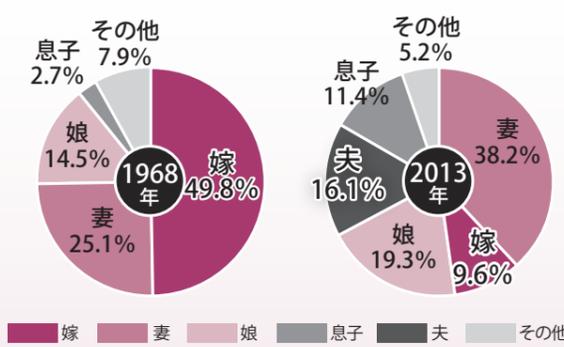
さらに、仕事介護離職の問題も深刻です。とくに40・50代の、職場では基幹的立場で家族がいればローンや教育費を抱える大黒柱的存在である男性にとって、介護で働けなくなってしまうと、当然、経済的な問題が生じてくると同時に、自分たちの将来の生活基盤をも失うことにもつながってしまいます。

親の介護を一人で担う男性介護者がやむなく離職し、生活保護の申請も受理されず、経済的にも精神的にも追い詰められてしまつていこうケースが増えてきています。「仕事と介護の両立は、いま最も大きな問題の一つなのです」。

### ◆自ら孤立化を深める男性介護者

男性介護者には自ら抱え込んで

図表1 同居の主たる介護者の続柄

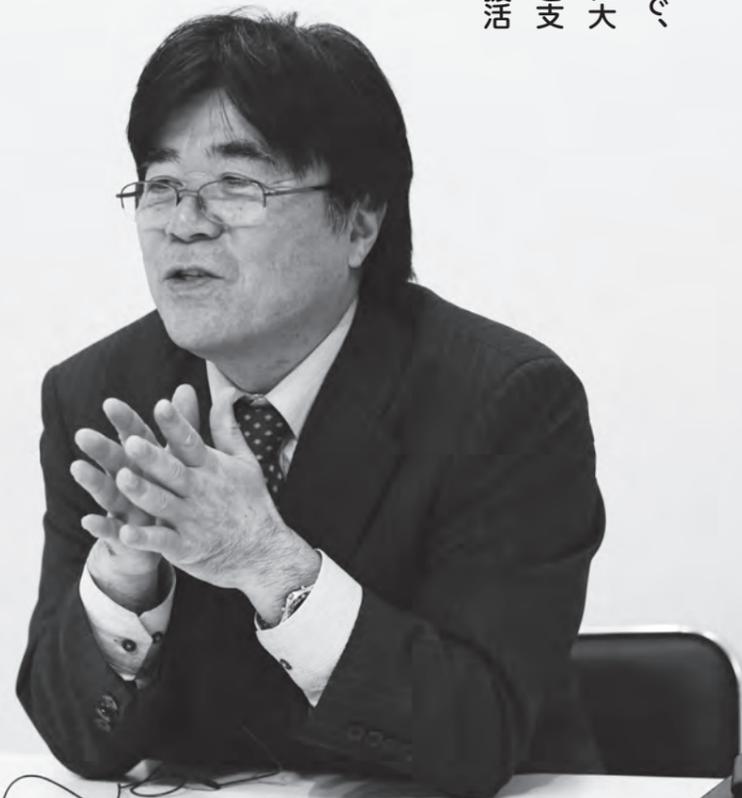


参考資料：全国社会福祉協議会 1968年調査資料から作成  
総務省「2013年 国民生活基礎調査」から作成

【参考資料】 働きながら介護している人 290万人

		単位：万人 (千人以下は切捨て)							
		総数	40歳未満	40～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
有業者総数(1)		64,420	24,601	14,640	6,363	6,141	6,120	3,201	3,352
介護している有業者数(2)		2,910	319	534	515	619	546	213	160
介護している男女別	男性	1,309	142	216	197	276	277	113	85
	女性	1,601	176	317	318	343	269	99	75
(2) ÷ (1)		4.5%	1.3%	3.6%	8.1%	10.1%	8.9%	6.7%	4.8%

引用：平成24年就業構造基本調査(総務省)



**Profile**  
津止 正敏 (TSUDOME MASATOSHI)  
立命館大学 産業社会学部 現代社会学科教授  
1953年/鹿児島県生まれ。  
立命館大学大学院社会学部研究科修士課程修了。  
1982～2001年/京都市社会福祉協議会に勤務(地域福祉部長、ボランティア情報センター長等を務める)  
2001年/立命館大学産業社会学部教授。  
09年3月/「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」を発足させ事務局長。  
著書に、「男の介護 そして、ケアメンになる一初めの一歩」『しあわせの社会運動一人がささあうということ』『ケアメンを生きるー男性介護者100万人へのエールー』など多数。